

2013年(平成25年)2月1日

いくらクズでも父は父

いま No.455
子どもたちは
親が離婚した…⑥

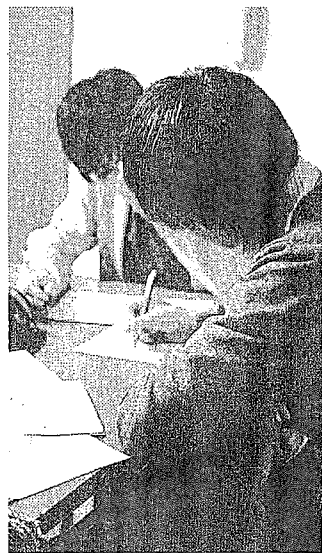
父(47)がおかしくなったのは小学5年のころだった、と大阪府の高校1年生タツヒロ君(15)は振り返る。「それまでは仲が良く、裕福な家庭だった」

酒を飲んで怒鳴り、暴れるようになった父。靴をそろえていない、野球が下手だ、食事の仕方が悪い……。常にイライラしていて、「ぶっ殺してやる」とすぐまれた。仕事のストレスがたまっていたのだろうか。自分が要領が悪いのがいけなかったのだろうか。いろいろ考えてみたけれど、今もきっかけはよくわからない。

母(46)と弟(8)と逃げるように家を出た。サウナなどを転々とした後、3人でアパートで暮らし始めた。「どうして、俺の家は普通じゃないんだ」。精神的に追い詰められ、学校に行けなくなった。中学1年のとき、離婚が決まった。

翌年の冬。母が、1人親家庭の子どもに授業料半額などのサービスがある学習塾を見つけてきた。同府箕面市のNPO法人「あっとすくーる」が運営する「渡塾」。スタッフの多くが両親の離婚や、1人親家庭での生活を経験した大学生だ。それまで家族のことを話せる友だちがいなかったタツヒロ君は「すべてが輝いてみえた」。

父のこと、学校のこと、離婚のこと。何でも話した。誰も笑ったり、バカにしたり、哀れんだりもしなかった。「ありのままの状況を受け入れることができるようになった。先生たちを見て、自分もちゃんとした大人になれるんだと思えた」。自然に学校へ行くようになり、高校に進学した。



「渡塾」で学ぶタツヒロ君(手前)。離婚家庭や1人親家庭で育った先生たちに勉強を教えてもらう
=1月11日、大阪府箕面市

「家族は互いに支え合って、バランスを取っているもの。急におやじのコマが抜けて、ぐらぐらした」。離婚当初の自分と家族を、そんな風に振り返っている。

最近、気になるのは母のことだ。1人で働き続けるのは大変だと思う。けれど「絶対に再婚してほしくない」と伝えてある。それは、父が好きだからじゃない。「いくらクズでも、父は父。本気で殴ろうかと思ったこともあるけど、やっぱり代わりはいないんです」

(古田真梨子)